

■R03.02.01 記者会見内容

日時 令和3年2月1日(月)午前11時～午前11時55分

場所 第1委員会室

出席 市長、総務部長、企画部長、健康福祉部長、交流推進調整監、企画調整課長、健康課長、交流観光課長

酒田記者クラブ10社(山形新聞、荘内日報、読売新聞、河北新報、朝日新聞、毎日新聞、NHK、SAY、YTS、YBC)

その他1社(コミュニティ新聞)記者クラブの承認による

■市長発表事項

なし

■懇談・フリー質問

記者／先の知事選が終わって初めての市長会見となり、結果としては吉村知事の続投となった。ここを率直にどのように受け止めて今後の吉村県政にどういったことを望まれるのか。

市長／まずは吉村知事におかれては大勝だったので、県民の支持がしっかりと実証できたということだったかと思う。そういう意味ではまずはお祝いを申し上げたいと思うし、これからの県政の執行に当たっては、強いリーダーシップと山形県を良くしたいという強い思いを政策に反映して頑張っていたらいいと思っている。

記者／続いて2問目。東北公益文科大学の公立化について、様々な報道が錯綜している部分はあると思うが、県からの設置の準備に係る組織の準備を一時停止するという報道もあった半面、議会の後にやると。吉村知事自身「その話はわたしは聞いてないのでびっくりしている。」というような発言も一部報道であった。今、東北公益文科大学について酒田市として受け取っている情報というのは今どういう状況になっているのか。酒田市が把握している範囲として。

市長／実は私も報道を通じてそういうやり取りがあるというのを見聞きしているというのが実情。事務レベルでこれまで組織体制の在り方を協議してきているという報告は受けていたし、4月に向けて県が大学と酒田市とで詰め作業をしているという話も報告は受けていたので順調に進んでいるものと理解をしていた。ただ、25日に県から電話があって、もう少し詰めたいので一時的にストップするということがあった。報道機関の取材には、私もその報告を所管から受けた時に、「順調に行ってたんだけどな。あれっ。」と思ったのは事実。ただ、27日だったか、2回目に県の事務方から電話が来た際には、少し整理した時間をもらってこれは公約でも掲げていることなので進める、という話でしたので良かったという思いでいる。それ以外のことについては特に県から粛々と必要な作業を整理して、前に進めていただければ、大変ありがたいという思いでいる。

特に 25 と 27 日にその電話で事務レベルの連絡があった以外は特に県から詳細な説明も何もないので、私どもは順調に前に進むという理解をしているところ。

記者／続いて 3 問目に移らせていただきたいと思う。今週末金曜日、にかほ市に市長も出席されるかと思うが、鳥海山飛鳥ジオパークの再認定の結果がここで報告されることになっている。今の段階では結果がどうなるかわからないと思うが、これについての期待感、そして認定された場合どのように活用していくか教えていただきたい。

市長／結果はまだわからないので、何とも申し上げようがないが、ぜひ再認定をしていただけたらうれしいと思っている。これまでも私ども 3 市 1 町が協力して鳥海山飛鳥ジオパークについて様々な活動をやってきた。再認定ということになれば、そのことも一定程度評価されたものと思うので、更に自信を持ってそれを深化させていきたいという思いでいる。私も最初に認定を受けた時、気持ちが非常に高まって、「次は世界ジオパークを目指す」と言ってしまった。再認定を受けて、これからもう一つワンステップアップしたいと思うが、ぜひともユネスコで定めている世界ジオパークの獲得に向けて具体的な動きだしをこの 4 年間でできればという思いでいる。そのためには、体制作りが大事だと思っているので、事務局体制をしっかり充実させなければいけないと思っている。そういった動きを他の 2 市 1 町の首長と少し協議をさせていただいて、1 つ 1 つ前に進めていければと思っている。

記者／先の吉村知事の会見で、選挙戦の中でのやり取りの中で、陳情に行っても会ってくれないという言葉が出たのは心外だという発言があったが、そのことについて改めて、どのように受けとめているか。

丸山市長：心外だという言葉の意味をどうとらえるかということかと思っているが、8 市長の皆さんの意見の中で、なかなか要望活動などに行こうとしても、そういう場を持たせてもらえないという話が出ていたのは事実。ただ、我々市長側の思いとしてはそういう思いだが、一方、受ける方の知事の思いとすれば、あれだけ多忙な方なので、一定程度その声が上がって全部それに答えていたら体がいくつあっても足りないという位の忙しさだろうとは思う。そういった意味では私の思いとしては、なるべく私どもの声を吸い上げる場を県庁の皆さんから持っていただければいいのかなと、そういう思いの発言が強かったんだろうと思う。直接知事がどうのこうのという発言は、私は無かったと思っている。とりわけ声をまとめた 8 市の市長さんの思いというのはもっと県との連携を強くしたいのだというそういう思いの表れではないかと私自身は理解をしている。連携というのは、要するに双方向でないと成り立たないものなので、どちらか一方がどんどん強めようと思っても対話と同じで、双方向が噛み合って連携、対話が成り立つという理解と思うので、そういった環境を県と市との間で望んでいる首長の声がこういう形で出たのかなとそういう思いで考えている。

記者／県との連携を強くしたい、場を持っていただければという思いが強かったというこ

とかもしれないが、今後吉村知事、ひいては県にどういったことを求めていきたいか。市長／今言ったことを是非参酌してもらいたいという我々の声を受け止めていただけたらうれしいという思いでいる。

記者／公益大の話も、我々の声を受け止めてもらいたいということもあったが、個別具体的に頭に浮かんでいるような政策はあるか。

市長／今回の公益大の話も、実は私どもは何もアクションをしていない。25日も27日も県からのアクションで、マスコミの皆さんそれから当事者である東北公益文科大学の皆さん、それから酒田市がどういう受け止めをしたかということでごなっているだけの話。県がアクションをしたことだけが実は前面にでていっている。本来であれば連携ということなのでお互いに調整して、それで表に出ていけばいいが、今回の場合は時期も時期だったし、そういう意味では少し「あれっ」と思ったのは、何かあったのかなという思いを持つようなアクションだったかという思いを私は持っている。ただその後も知事がおっしゃっているようだが、特に何も変わらないということだったので、その言葉を私は信頼申し上げて今後の動きについてはしっかりと県と連携をして進めていきたいと思っている。

あと具体的に色々なものがあるのではないかとということだが、私は一番今この地域で気になっている所というと、ゼロカーボン社会の推進という国の方針を受けて、石炭火力発電の動向というのがこれから非常にどうなっていくかわからない中で、酒田市にはこれまでも酒田市の雇用だとか、地域経済の発展にすごく貢献いただいた酒田共同火力発電という会社がある。この会社のこれからの動向ということが酒田の地域経済、雇用、それから港の活用にもすごく大きな影響を及ぼすことだと思うので、この辺についても我々は自分事として、一生懸命動こうとしているが、県からも是非力を貸してもらいたいというのが、今喫緊の課題としてそういうところを私は重要視している。

県も洋上風力発電を推進したい、それから酒田港を洋上風力発電に係る基地港湾にしたいということをしっかりと行っていただいているので、その辺は、より具体化が早まるような形で一緒に取り組んでいけたらいいと思う。その事も含めて共同火力発電の今後の動向だとか、そういったことを総合的にこの地域の地域経済を維持するための、仕掛けとして取り組んでいけたらいいという思いを私は持っている。大きな事業としては今絞り込めばこの2つ。

あと、これは最初に言わなければいけなかったが、やはり新型コロナ対策。ワクチン接種体制をどうやって構築して、県と一体となってしっかりとワクチン接種が進むような環境を作るか。今一番の課題はこれだと思う。新型コロナウイルスに対する対応、これをしっかりと展開をしていく。私どもも今日2月1日付けで新型コロナウイルスワクチン接種対策室の辞令交付をしたので、県と一緒にこの新型コロナウイルス対策を進めていかなければいけない。それからこの地域の経済再生、これも今回、飲食業、飲食店も含めてだいぶ疲弊し、ダメージを受けているので、それをどうやって皆で支えられるか。市として検討して支えられるかその辺を一緒に取り組んでいかなければいけ

ないと思う。それ以外として言えば、先ほど言ったように、公益大の公立化もそうだが、酒田共同火力発電の関係だとか港の関係だとか洋上風力の関係だとか、やはり地域経済の活性化にしっかり資するようなそういう大きな課題があるので取り組んでいければという思いでいる。

記者／25日に連絡があったとのことだが、27日はどういう方からどういう形で連絡がきたのか。

市長／県の総務部長から市の企画部長に直接来たので企画部長から回答させる。

企画部長／1月27日だが、県の総務部長より私のほうに電話があり、県としては、総務部長もそうだが、吉村知事も県議会において答弁をしているということなので、公益大の公立化の検討をしないということではなくて、これからも進めていきたいと。それで組織については内部で検討している事情であるので、決して後ろ向きではないという内容の電話があった。

記者／公立化の大方針は変わらないということは改めて言われて、組織の関係はその時のやりとりをどこまで言えるかわからないが、なぜ25日に一旦そういう話になったのかというやり取りは企画部長にはなかったのか。

企画部長／その日はそういう電話の内容はお互いやり取りはしていない。

記者／アクションは県の方からしかなかった訳だが、なぜそのようなアクションがあったのかというのは、市としては確認してはいないということか。

企画部長／はい。

記者／そこはまだなんとも聞いてもないので、市としてはなぜそのような連絡がきたかというような主旨は把握していないということか。

企画部長／そのとおり。

記者／組織も後ろ向きではないということ、ただ一旦作業としては市としても止めている状態か。その25日に一旦ストップという話があった後、27日に後ろ向きではないとなると、もう一回動き出してくださいということなのか、それともそこは変わらないのか、どちらになるのか。今後、色々な組織の設立となると市だけではない部分になると思うが。現状は25日に言われた状態のままということか。

企画部長／私どもも山形新聞の新聞で見たところもあるが、山形県の方でもこれまでも事務方の方で2市3町それから公益大学、それから山形県と実務者レベルでの会合は昨年も開いているが、それはまた2月定例会後に開催をするという報道を見ているので、その時に具体的な今後の進め方について色々話し合いが持たれるのかという風にして理解している。

記者／そこまで市の対応はそのまま25日に言われた状態のまま、ただ公立化の方針は変わってないという確認をしたまでか。

企画部長／はい。

記者：具体的な事務的なものに関しては議会後に動く、必要のあるものはやるということ

とか。

企画部長／そのように理解している。

丸山市長／私の受け止めとしては、順調に県との調整は進んでいるという受け止めだった。25日の連絡がなければ、順調に人選も終わって2市3町で合意形成が出来て、大学も入れて県と一緒にそういう組織を立ち上げて前に動き出すかと思っていた。あくまでも私の認識としてはということでご理解いただきたいが、4月にはそういう動きが進むんじゃないかという思いで実は理解はしていた。ただ25日に、しかも新聞報道でしか知りえてないが、2月定例会後に県の方でアクションをおこすということになるので、2月定例会後というところかなり遅れるので、最初に私どもが描いていたシナリオ通りには進まないで、時期的には遅れるのではないかという思いも今のところ持っている。具体的にその正式なスケジュールとか色々なアクションが私の所にはないので推測でしかない。むしろ山形新聞が取材してるので、我々より情報を意外と掴んでいるのではないかと思うが、結局申し上げたように私どもに対しては、県から具体的に特に私に対してどうしよう、こうしようかと相談がきているわけでもない。一方的に通知がきただけなので、でも順調にこれからもやるんだということのようなので、それは信頼をして一緒に取り組んでまいりたい。私どももそうだが、東北公益文科大学側も、やはりあの電話連絡は確か同じ日に受けたと聞いていたので、そういう面ではやはり少し「おやっ」と思ったと思う。今後の展開については、2市3町だけでなく、当事者である東北公益文科大学側と県と一緒に手を組んで取り組んでいけたらと思う。

記者／市長の発言として、有権者の見ている知事の姿と、首長の皆さんが見ている知事の姿が違うんじゃないかというような発言が載っていたと思うが、反応の鈍さとか感覚のずれということが載っていたかと思う。市長の個人的な問題ではなくて、酒田市民全体の不利益になるようなことが、知事の方の問題であるとすれば、市長だけの問題ではなく酒田市民10万人の皆さんが不利益を被ることもあるかもしれないと思う。もし本当に何か問題があるのであれば、改善を求めたりしていく必要があると思うが、私どもというか一般の市民がわからないような知事の姿というのを市長からご覧になってどのようなところが伝わってなくて、市長から見てどのような辺りに問題があったかと思うか。

丸山市長／山形新聞の記事取材も文字になってしまうと、私が言っている本当の意味での思いが入っているかというところが難しいと思って読ませていただいた。山形新聞と話をする中でしっかりと原稿にさせていただいていると思ってる。ただ言葉の中に込めた私の気持ちは、要するに例えば、東北公益文科大学の公立化という話だとか、先程も申しあげたが、石炭火力に対する今後の話というのは、酒田市にとっては非常に大きな課題。その問題意識は市長であるが故に一番頭の中では非常に大きな比重を占めている。でも、私どもとしては、これは一大事だ、大変なことなんだということで、何とかしないということで、県に伝えたいということ。だから私は一年半前の酒田市長選挙の時に公益大

の公立化の話は検討をするということで公約に掲げた。県にもその話を伝えてきたはずだが、このタイミングでようやくその知事からも公約にあげていただいたということで、本当にそこは感謝をしたいと私は思う。この公益大公立化の話が問題に出たのはもっと前、2017年かと思う。そういう意味では結構時間がかかったということがある。知事の味方をする訳ではないが、先程も言ったが、我々は一つを山形県庁にお願いをする、しかし、山形県庁は35市町村全部の事を見ないといけないから、全部回答を出せるかという単純ではない。大変な調整とか予算が絡むし、慎重に内部で詰めないといけないことがあると思う。ただ一方、私の方としては、この二つの問題というのは非常に大きな話で、特に石炭火力の問題については今回の新型コロナの関係で国が大きく舵を切ったので、そういう面では喫緊の課題だという意識がものすごく強い。それに酒田港の振興のことが絡んでいるので、なおのこと非常に大きな課題だという認識をする。したがって早く県と一緒に動きたいという思いが募る。そういった意味では、一般の人たちが、東北公益文科大学の公立化がどんなに喫緊の課題かということだとか、あるいは石炭火力をどうするかということが大変な問題なのかということについて、私の意識と市民・県民の皆さんの意識と全く同じかということと違うんだろうなと私は思う。将来の酒田を見た時におそらく市長としてそれに対する危機感は強い。その思いを私は県にも訴えたつもり。公立化の話もちょっと時間がかかった。これから県議会の答弁を見ると、県も公立化の話もそうだが、共同火力、ゼロカーボン社会の推進についても、しっかり動き出すということではあるが、我々はその地元の酒田のことが、酒田にある施設なり企業なり大学のことだから、すぐ反応したいし、結論を急ぎたくなる。それは私は市長として当然だと思っている。その思い、感覚のずれがどうしてもある、ずれがない方が本当は私の方としてはありがたい。でも県としてはさっきも言ったように、35市町村みんな喫緊の課題を抱えている中で、すぐに反応するというのは難しいということは百も承知ではある。ただ酒田の今後については、この2つはものすごく大きいテーマだと思っていて、そのことを県に伝えてきたが、なかなかアクションが遅かったという思いが、あの場でいろんなコメントした言葉となった。今回も山形新聞の取材に応じた時にはそういうことを話をさせていただいたつもり。庄内日報には、前に話が出た時には、実は一年前の全日空の庄内空港5便化コンテスト卒の話もさせていただいた。このことについてはコミュニティ新聞も書いていたが、その時も、実はそういう思いで私は動いて、県の方に色々お願いをしたつもりだが、結果的にそれは県に判断権限があるので、県の判断で手を挙げなかったということ。それは私どもは残念だった。しかし、庄内空港、それから5便化といった大きな課題を前に進めるには絶好のチャンスだったが、結果的にその声が伝わらなかった。それが、私のその感覚のずれだとか、例えば反応が遅いという言葉に表れたというふうに理解をしていただきたいと思う。決して県知事がどうの言っているわけではない。市対県という関係の中でそう言っている。ただ市のトップは市長だし、県のトップは知事ですからどうしてもそういうふうにとられてしまうが、私としてはこの市の今の現下の最大の課題であるこの2つをやはりなんとか県から

くみ取っていただいて、速やかに受け止めてアクションをだしてもらいたかったという思いが強かったので、こういう形で私の行動、あるいは発言となって出た。山形新聞に載ってたコメントは、私が答えた中身をきちんと書いていただいたと思うが、言葉の中にはこういった思いまでは誰もくみ取ってもらえないだろうと思うし、共同火力発電の今後とか、ゼロカーボン・港のこととか、東北公益文科大学のことというのは、他の市町村長はわかってもらえないと思う。私だから分かる。知事選挙の時に県民の皆さんが酒田の共同火力発電のことをどう考えてくださっているんだろうとか、そこまでなかなかわからない。だから私は酒田市長として酒田の最大の課題を、いかに県に伝え、県からくみ取ってもらって一緒にアクションをおこせるか、これが最大の争点だったとっていて、その中で推薦をする際には、どういう行動をとるべきかというのが判断材料にさせていただいたというのがある。ただご存じの通り公益大の公立化については、双方とも公約にあげていただいたので、私としては今回の知事選挙の大きな意義というのは私どもの一番重要なテーマと思っていた課題について、双方からくみ取っていただけたということは、非常にありがたかったと思う。その他にも例えば県との絡みの中で、上水道事業と県の広域水道行政供給事業これを統合して一つの上水道事業として安定的にそれから安価な水を、これから将来に継続して地域住民の皆様にも配るという動きについても、国はそれを進めているわけだが、なかなか県がそれについて動いてくれないということも大きな課題として実はあった。言えばきりがないのでこの辺で差し控えるが、そういったところを共有するのに非常に時間がかかるというところが私のその感覚のずれだとか反応の鈍さという言葉になったということで、ご理解をいただきたい。言葉としては足りなかったかもしれない。その言葉だけでなんかその知事への批判というふうにとらえられると、私どももそれこそ、そういう思いではなかったということをお伝えしたい。

記者／市役所と県庁の間のお話だと伺ったが、市役所と県庁の間でなかなか危機感が共有できてなくて、そういう関係を改善していくというか、何かできることがあるか、例えば今回は県市長会の中でも大多数の市長が県と自治体との間で齟齬があるようなことを言っていたが、県市長会として何か県の方に関係の在り方を見直してもらうように、そういった何か改善を求めていった方が、我々こういう市町村に住む人間にとっても、よりいい政策をしたいただいたりできるのかと思うが、その辺は何かお考えがあるか。丸山市長／山形県の市長会の今後の動きについては、これから市長会の中でしっかり議論をしていく中身だと思うので、今この時点では私の方でどうのこうのとは言えない。県市長会の中で今後どうあるべきかについては詰めていきたいと思っている。まだ1週間しかたっていないので、そういう動きはなかなか取れない。

記者／酒田市として何かそういった危機感を共有してもらうために何かできるものとかあるか。選挙戦の中で売り言葉に買い言葉になってしまうが、せっかく問題提起なされた言葉があつた限りのことになってしまうと思うが、もし本当にその県と市の間でなかなか危機感が共有されなくて進むべき政策も進んでいないとしたならば、他の我々全

体で考えなければいけない問題だと思う。だとすると酒田市としても何か広範に皆さんに理解をいただいて、もっと政策が進んで県と絡む企画が進めるように酒田市として何か今後の改善していくために何か出来ることはあるのかなと思ったが、その辺というのは今何か考えていることはあるか。

市長／今回の選挙でいろいろあったが、酒田市だけでなく13市の中でも多くの市の首長が県とのあり方については、議論をしたうえで推薦書を相手方に出した。結果は出たので、肅々と結果を受け止めて、今までの反省に立って県と市町村の間では連携がスムーズに進むように、先ほども言ったが連携というのは、県が一方的にしたことに対する連携ではなく、対話のようなやり取りがあつての連携をしっかりと進めてもらえればいい。我々の声をくみ取っていただけたらありがたい。そのために酒田市が何ができるかという市長会の中でもそれなりに市長会と県との関係も全体がスムーズに行くように市長会としてもまとまっていく必要がある。県に対しても濃密な議論をしたうえでその施策を前へ進めていきたいと思いますということを是非県の方に述べていきたいと思うし、県からも酒田市の考え方というものをしっかりとくみ取っていただいたうえで、そのことを施策に反映していただけたらありがたい。結論から言えば我々が言ったことに対して次の4年間の県政に生かして公約実現と県勢の発展のために知事から頑張っていたきたいというエールを送りたい。

記者／知事の発言についてだが、もっとお願いする場を設けてもらえればという話があったが、その発言を聞いたとき市長として戸惑ったとかあれば話を伺いたい。

市長／記者会見を見ていた。不快な思いを与えてしまったかなという感覚はあった。知事の発言に対してどうこう思わなかった。

記者／35市町村があるので酒田のことだけ聞いてもらうことは難しいが、大学・港湾・空港・離島があり、県内でも特殊性のあるものがある。内陸や鶴岡に比べて特殊性が高いものがある。日本海総合病院もある。35市町村の中でも県と一緒にやっていくものや国のものや特殊性の高い施設が多いということが注目されると思うが、酒田は違うというその辺は訴えていくのか。特に飛島の方は米の関係もある。今まで支援はなかったかと思う。飛島については突然県からあったと思うが、本来、常日頃から支援があつてよかったと思うが、その辺の受け止めと酒田の特殊性を訴えていくことはあつてもいいと思うが。

市長／酒田は非常に特殊。庄内空港も酒田市にある。東北公益文科大学も本体は酒田市。港も酒田市にある。発電所としても酒田にある。いずれも酒田市が単独でやっている事業ではない。飛島の話もされた。飛島は確かに酒田市の行政エリアだが、離島振興計画という計画があつて、これは県が策定する。山形県の離島振興計画は飛島しかないのだから、まさに飛島をどうするかという計画策定は県がやる。もちろん酒田市もかわりを持っているが、そういう意味では県が深く関わっている社会基盤が集中してあつて、そこに關する大きな問題が表面に出てきている。我々も酒田市だけが動いてすむ話であればど

んどんやる。ところが、港は山形県の港で所在地が酒田にある。公益文科大学も公設民営で作るときは55%を県が資金を出して、庄内の2市3町は45%出した。共同火力発電も港の後背地にあつて山形県の発電事業としてはあそこが一番大きいわけで、エネルギーを生むという意味では、県にとっても非常に大きな比重を有する発電事業体と思う。酒田市だけがどうのこうのということではなく、山形県から主体的な動きを取ってもらわないと私どもだけでは前に進まないという現状がある。そこが他の地域と違った特殊性があると言えば確かにそのとおり。そのことに対する私どもの地元としては何とかしたい、一緒にアクションを早く起こしてほしいという思いが、今回の選挙の時に私のそういう思いが言葉となって出たのかなと思っている。知事選挙の場でそういったものが議論されたということは良かったと思うし、そういった経緯を踏まえて吉村知事が再選されたので、その辺に意を用いていただいてこれから県政を執行していただけたらなという思いを持っている。先ほど言ったが上水道の統合事業についても水道用水供給事業は県の事業として田沢川ダムを含めて県が施設も運営している。水道用水を供給する事業と上水道事業を一体的にする、それが垂直統合。酒田、庄内町、鶴岡市、入水団体が一つの企業体になってやっていくのが水平統合。これも国ではやれと言ってきている。なかなか県が自分事としてそういう動きをしてくれなかったというのは、これまで交渉事として時間がかかっているの、そういったものも前に進めたい。県が深く関わっている事業をいっぱいかかえている。そのことが今回の知事選挙の時に市域の課題を県とどうやって歩調をそろえてやっていくにはどういう関係になればいいのかということ議論したうえで、考え方が合った首長が多かったということで今回そういうことになったのかと思う。

記者／飛島の支援はこれまでなかったか。

市長／なかったと思う。最初この話がきたとき、ありがたいと思った。確かに船が止まれば、その間物流が止まるのでそこに配慮していただいた。これも知事が記者会見で言っていたと思うが、山形県沖地震だとか最上川の氾濫だとか、ここ1、2年で災害が襲いかかってきたし、孤立することに対する意識は非常に高まったんだろうと思う。その1つの現れとして、飛島に米を送るという話をされてということであれば、私どもはありがたいと思う。願わくば来年以降も続けていただきたい思いもある。もちろん我々の行政エリアなので、私どもも一緒にそういったことができたなら飛島に住んでいる若い人たちも高齢の方もいるが、安心して島で暮らせることの支えになるのかなという思いで受け止めている。

記者／飛島の件だが、私は一昨年の夏に酒田にきて1年半ほど暮らしているが、一酒田市民として話を聞いていると、飛島の方は海が荒れて欠航することが多いので、どうしても冬場は島で暮らすのが難しいから内地と島の2拠点で生活するのは、ある種飛島の方はそうだとすることは、酒田市民にとっては常識だと思う。それをいきなり冬場海が荒れているから米を送ることはなぜだろうと率直に思う。酒田の人からすれば船が動か

なくなっても何日欠航とか1週間の欠航はざら。大半の人は2拠点で生活している。その辺のやりとりなどはあったのか。それを知らずに県が送ったのか。

市長／私には直接なかったが、危機管理課長からその話を受けただけ。飛島の現状については危機管理課長も県にはしっかり伝えたということで報告を受けている。そのことを理解したうえでの今回の県の措置だったと思うので、それは県が判断したことなので、このことに対して私どもがとやかく言うことではない。ただ先ほども言ったように飛島の住民のためにそのような配慮をしていただけたということは、非常にありがたいと思っている。知事が直接指示をされたということを知っているが、山形県沖地震や最上川の氾濫による水害だとか災害が頻発する中でそういう意識になって、毎年のように飛島の定期船の欠航はあるので大変だと思ってくださって措置を講じてくれたことについてはありがたいし、これからも長くお願いできればと思う。そういうことをやる際には、酒田市も一緒に名前を連ねてやれたらいいという思いを持ったところ。事務方のやり取りとしてはあったということで危機管理課長から報告を受けているので、そのことを分かったうえでの判断だったのだろうと推測している。